

RF マウント採用のデジタルシネマカメラ“EOS C400”を発売 6K フルサイズセンサーを搭載し印象的な映像表現を実現

キヤノンは、映像制作機器 CINEMA EOS SYSTEM の新製品として、高い機動性と充実したインターフェースを両立し、放送やライブ映像制作の現場でも高品位な映像表現を可能にする“EOS C400”を2024年9月上旬に発売します。



EOS C400
*「CN-R85mm T1.3 L F」装着時



ライブ映像制作での使用イメージ

“EOS C400”は、「EOS C500 Mark II」（2019年12月発売）と「EOS C300 Mark III」（2020年6月発売）の基本機能を継承、進化させながら、RF マウントを採用したデジタルシネマカメラです。高画質な映像撮影を可能にする6Kフルサイズセンサーを搭載し、被写界深度が浅く、美しいボケ味で印象的かつ高品位な映像を実現します。また、充実したインターフェースを備えながら小型・軽量化を実現することで、映画やドラマなどの映像制作現場はもちろん、ライブ映像制作現場においても、シネマティックな映像表現を演出します。

■ RF マウント採用による多彩な映像表現

CINEMA EOS SYSTEM の上位機種のカメラとして初めてRFマウントを採用しています。RFマウントの通信プロトコルに対応し、倍率色収差補正・周辺光量補正・デュアルピクセルフォーカスガイド・歪曲収差補正がカメラ側で行えるほか、豊富なラインアップから映像表現に応じたレンズの選択が可能です。また、RFマウントの高速通信により、バーチャルプロダクションに適したメタデータの出力に対応します。さらに、新たに発売する「マウントアダプター PL-RF」（2024年9月上旬発売予定）を装着することで、映像制作業界で普及しているPLレンズの使用も可能です。別売りのマウントアダプター^{*1}を装着することで、EFレンズ資産も活用できます。

■ 6Kフルサイズセンサー搭載による6K/60P内蔵RAW記録や4K/120P^{*2}記録

6Kフルサイズ裏面照射積層CMOSセンサーをCINEMA EOS SYSTEMで初搭載したほか、映像エンジン「DIGIC DV 7」を採用したことで、6K/60P RAW動画や4K/120Pのハイフレームレート記録を実現しています。また、低輝度部から高輝度部まで自然なトーンでの色再現と、暗部のノイズ低減を実現し、6Kオーバーサンプリングによる4K画質を向上しています。さらに、「デュアルピクセルCMOS AF II」の搭載により、追従性に優れた高速・高精度・広範囲なAF操作を実現しています。

■ 幅広い現場に対応するインターフェースと新ビデオフォーマット

小型・軽量の筐体を実現しながら、GENLOCK/SYNC/リターン端子やイーサネット端子など充実したインターフェースを本体に搭載しています。撮影中の映像が実際にオンエアされているかを認識できるタリ機能や、現在オンエア中の映像をモニター上で確認できるリターン機能など、ライブ映像制作用途のカメラに求められる機能が拡張ユニットなしで使用でき、ライブ撮影をサポートします。また、新たに、キヤノン独自のビデオフォーマット「XF-HEVC S/XF-AVC S」を採用しています。MP4ファイル形式でありながら、既存のビデオフォーマット「XF-HEVC/XF-AVC」のメタデータを踏襲しています。新たに、撮影日時やリール番号をファイル名に表示可能にすることで、カメラを多数使う撮影現場におけるファイル管理がしやすくなり、ワークフローの効率化を実現します。

^{*1} マウントアダプターの詳細はキヤノン公式ホームページをご確認ください。

^{*2} Super 35mm モードでフレームレートが100Pを超える場合、画角が約6%クロップします。

製品名	希望小売価格（税別）	発売日
EOS C400	オープン価格	2024年9月上旬

-
- 一般の方のお問合せ先 : キヤノンお客様センター 0570-07-0032
 - CINEMA EOS SYSTEM ホームページ : canon.jp/cinema-eos

〈主な特長〉

1) RF マウント採用による多彩な映像表現

- 大口径マウント、ショートバックフォーカスにより、理想的な光学設計を実現した RF マウントを、CINEMA EOS SYSTEM の上位機種のカメラとして初採用。高画質で表現力豊かな RF レンズを装着可能。
- RF マウントの通信プロトコルにより、倍率色収差補正・周辺光量補正・デュアルピクセルフォーカスガイドがカメラ側で行えるほか、歪曲収差補正にも対応。豊富なラインアップから映像表現に応じたレンズの選択が可能。
- 新たに発売する「マウントアダプター PL-RF」を装着することで、キヤノンの「Sumire Prime」はもちろん映像制作業界で普及している PL レンズが使用可能。PL マウント接点で接続し、レンズ・メタデータ（フォーカス／ズーム／アイリスの位置データなど）をリアルタイムに外部出力し、情報の記録や表示が可能。カメラとアダプターをしっかりと固定し、がたつきを抑えるロックプレートを付属。
- 別売りのマウントアダプターを装着することで、EF レンズ資産の活用が可能。

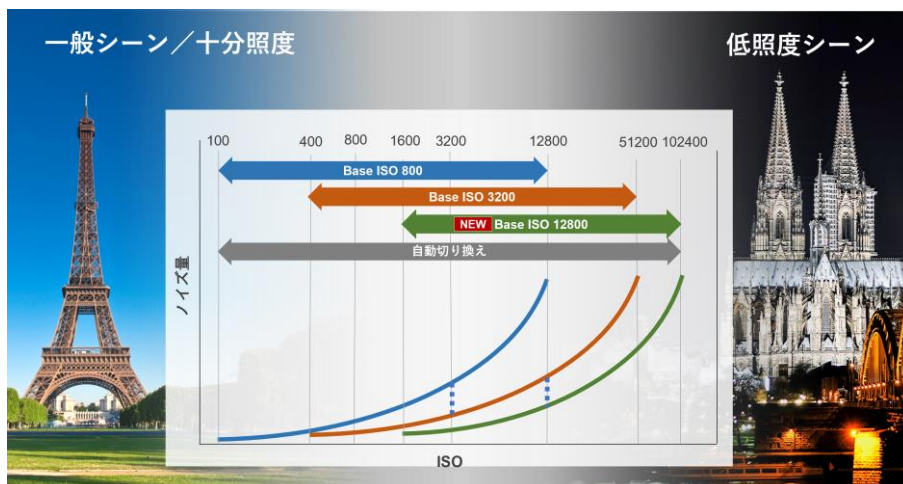


新開発の「マウントアダプター PL-RF」

2) 6K フルサイズセンサー搭載による 6K/60P 内蔵 RAW 記録や 4K/120P 記録

- 6K フルサイズ裏面照射積層 CMOS センサーを CINEMA EOS SYSTEM で初搭載したほか、映像エンジン「DIGIC DV 7」を採用したことで、6K/60P RAW 動画の内蔵記録を実現。最大 2K/180P、4K/120P 記録に対応し、高画質ハイフレームレート動画が撮影可能。スポーツのワンシーンやコンサートなど、印象的なスローモーション映像の撮影にも対応。
- 4K/2K 動画記録時も、6K 相当のデータからオーバーサンプリングによる 4 : 2 : 2 / 10bit の高画質記録を実現。
- Base ISO「自動切り換え」に加え、低感度から高感度まで 3 段階（ISO800、ISO3200、ISO12800）の Base ISO のマニュアルでの切替も可能。撮影シーンに応じて Base ISO を使い分けることでノイズを抑えた撮影が可能。
- 「デュアルピクセル CMOS AF II」を搭載し、追従性に優れた高速・高精度・広範囲の AF を実現。ワンマン撮影やジンバルを使用した撮影環境においてもカメラワークに集中でき、より創造性を発揮できます。また、ディープラーニングを活用したアルゴリズム [EOS iTR AF X] により、新たに人物の胴体*と動物（犬、猫）の検出に対応。動物優先（犬、猫）を追加。

※ 人物を AF 追尾中に瞳や顔、頭部が隠れた時に、胴体を検出してトラッキングを継続します。



設定可能 ISO 範囲（Canon Log 2/ Canon Log 3 時）
* 背景画像はイメージです。

3) 幅広い現場に対応するインターフェースと新ビデオフォーマット

- 本体外形寸法約 142 (幅) × 135 (奥行) × 135 (高さ) mm、本体質量約 1,540g と、小型・軽量の筐体を実現。カメラの機動力が向上し、大人数の映像制作スタイルからワンマン撮影まで、さまざまな撮影スタイルに対応。
- GENLOCK/SYNC/リターン端子やイーサネット端子を本体に搭載し、拡張性を向上。ライブカメラ運用に必須の機能であるリターン入力とタリー入力が可能。カメラ本体のアサインボタンや別売りのズームデマンド上のボタンの操作で、撮影中の映像とリターン映像の切替えに対応し、LCD モニターや外部モニターでの映像確認が可能。さらに、スイッチャーなどの外部機器からタリー信号を受けるとタリーランプが点灯。可搬性にすぐれたボディと合わせて、ライブ撮影をサポート。

タリーランプ

タリー信号を受けるとタリーランプが点灯します。



リターン入力
G-LOCK/SYNC/RET端子

タリー入力

イーサネット端子またはWi-Fi
(XCプロトコル)

ライブ撮影に適したインターフェース
*「CN7×17 KAS T/R1」装着時

- SRT プロトコルに対応。撮影と同時進行で、Wi-Fi やイーサネットを通じてリアルタイムに動画を送信する IP ストリーミング^{※1}が可能。放送局などの既存の映像制作・編集フローの中でニュース番組や動画サイトでのライブ配信を実現。配信中のカード記録も可能。
- 「Cinema RAW Light」や放送規格準拠の MXF を採用したビデオフォーマット「XF-AVC」に対応。
- MP4 ファイル形式を採用した新ビデオフォーマット「XF-HEVC S/XF-AVC S」を採用。既存のビデオフォーマットである「XF-HEVC/XF-AVC」からメタデータを踏襲した一方、ファイル名の管理がしやすいファイル名称体系を採用。カメラインデックスやリール番号を独立して管理することで、カメラを多数使用する大規模撮影現場にも対応。
- 報道向け動画転送アプリ「Content Transfer Mobile」^{※2} (2021 年 10 月公開) と静止画転送アプリ「Mobile File Transfer」 (2021 年 6 月公開) を統合したスマートフォン向けアプリ「Content Transfer Professional」 (2024 年 8 月公開予定) に対応。動画と静止画いずれも FTP サーバーやスマートフォンに転送可能。

※1. カメラのモードがシステム周波数 59.94/50.00(Hz)、記録形式が XF-AVC または XF-AVC S で、16:9(UHD/FHD) の場合のみ IP ストリーミング可能。

※2. 「Content Transfer Mobile」は 2024 年 11 月に公開終了予定。

4) バーチャルプロダクション対応

- カーボンニュートラルの実現や労働形態の適正化など、企業や業界としての社会貢献の観点から、映像制作や報道・ライブ制作の両分野で導入が進むバーチャルプロダクションに対応。
- RF マウントシステムの高速度通信により、レンズとカメラの撮影情報をリアルタイムに通信・演算。その出力情報に応じたメタデータを Ethernet ケーブル 1 本で取り出すことが可能。映像および、レンズのズーム操作に同期した連続的かつ高精度な歪曲データを取得可能なため、CG との境目にズレのない自然な映像を制作することができ、映像表現の幅を拡大。事前のレンズ毎のキャリブレーションも不要なため、撮影の準備を削減可能。
- バーチャルプロダクション、VFX の制作アプリケーション「Unreal Engine (Epic Games)」と「Adobe After Effects (Adobe)」の専用プラグインを提供。動画ファイルのフレーム毎メタデータをプラグイン経由でアプリケーション内に取り込み、映像合成可能。
- 別売りのマウントアダプターを装着することで、一部の EF シネマレンズ[※]でも上記バーチャルプロダクションに対応。

※ 対応 EF シネマレンズの詳細はキヤノンホームページをご確認ください。

〈製品仕様について〉

製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。

<https://canon.jp/business/solution/pro-img-sys/cinema-eos/lineup/ces-camera/c400>

〈ご参考〉

1) CINEMA EOS SYSTEM のデジタルシネマカメララインアップ

キヤノンは、RF マウントを採用した“EOS C400”を投入することで、シネマカメラのラインアップを強化し、多様な撮影スタイルに対応出来るフルラインアップ戦略を進化させます。高品位な映像が求められる映画やドラマなどの映像制作から、機動性が重視される報道・ライブ制作まで、プロの幅広いニーズに応え、映像文化の発展に貢献していきます。

製品名	EF	PL	RF
EOS C500 Mark II (2019年12月発売)	○	○※1	
EOS C300 Mark III (2020年6月発売)	○	○※1	
EOS C70 (2020年11月発売)	○※2		○
EOS R5 C (2022年3月発売)	○※2		○
EOS C400 (2024年9月上旬発売予定)	○※2	○※2	○

※1. 別売りのマウントキットが必要です。

※2. 別売りのマウントアダプターが必要です。

2) 「Cine Gear Expo」への出展

2024年6月6日（木）から9日（日）まで、米国・ロサンゼルスで開催される映画制作機器の展示会「Cine Gear Expo」のキヤノンブースにおいて、本製品を展示する予定です。

3) 映像制作機器の市場動向

高品位な映像が求められる映像制作機器では、4K をはじめとしたシネマカメラセンサーの高解像化が進んでいます。また、制作環境は常に変化しており、新しい映像表現に向けてユーザーの撮影スタイルは多様化しています。そのため、高画質な映像が撮影できることに加え、小型で取り回しのよい高い操作性を兼ね備えたカメラへのニーズが高まっています。（キヤノン調べ）

* Adobe、Adobe After Effects はアメリカ合衆国およびその他の国々における Adobe（アドビ社）の商標または登録商標です。